

同窓会会報

第6号

昭和41年12月20日
茨城県東茨城郡
内原郷
鯉淵学園同窓会

印刷所
新いばらきタイムス社
TEL: 25191

母校発展のために

副会長 和田文雄 (三期)

同窓会第六回大会(昭和三十九年十一月三日)以来、学園創立二十周年記念事業の推進に努力してきました。だがその一つである二十周年記念式だけは昨年十月十六日、学園で盛大に行うことが出来、全国の同窓生とともに喜びをわかちあうことが出来ました。

また、学園農民教育協会同窓会で鯉淵学園創立二十周年事業委員会を発足させ、同窓生からは百三十万円をこす募金を得、さらに目標の二百万円を越す日も間近かであると思われまふ。同時に全国の農家団体からも協会を通して募金に御協力を戴き一四一万八千円(四一・三・三一現在)が事業委員会に横立てられております。

記念植樹については二期大山嶺雄氏と、十三期増山輝雄氏から送られた苗木を学園内に植え、将来の建物、校庭、グラウンド等の配置が決定され

田学園長にその促進方を申し入れ、

次章、並木通りに、或は庭園へ配置する手はずとなつています。

しかし、事業の主体であり、中心である会館建設、記念史については再三の同窓会からの要望にもかかわらず、具体的な計画発表の段階に至らないことは誠に同窓生諸氏に申し訳ないことと思つています。

まず、記念史については同窓会が分担した学生生活の思い出、同窓生の活動についてはすでに完了してありますが、学園側が分担した学園の沿革史、教育の理念とその実践、農場の運営とその実践、学園の対外的な教育活動などのうち一部が脱稿しない由で、いつ印刷に廻せるかその見通しがついておりません。

同窓会としては予約金を送つて下さつた方々に何んと申し開きたいし、てよいか途方にくれているのが実情であります。編集委員長である鞍

早急に出版にこぎつけたいと努力している次第です。

同時に記念会館の建設についても先に記したとおり募集額は目標とは相当のへだたりをもちつておりますが、幸いに来年度の農林省予算に一千二百万円程度の教室等の建設費が認められるであろうという段階にありま

すのでこれらと併せて事業委員会として具体的計画をねるよう、協会事務局に働きかけ、委員会を開催するよう申し入れていた次第です。

しかし、同窓会として昭和四十年三月一五日付提出した要望書にもありとあり、学園のこれからの運営についての基本的な方針が定められな

いと建物一つ建てるにしても、それが将来にわたつてくはぐなアンパランスな、教育機関としてふさわしくないものとなつてしまつたのでは折角の好意や努力も無駄なものとなつてしまいますので、学園の将来計画検討こそ重要であり、かつ急務であると考へております。

幸い協会理事会は、去る八月一日この問題を特に検討するため審議会を設けることを決議、その後、入選も済み、十月頃には第一回の会合が開られるはこびとなつてまい

き、同窓会代表を誰にするか、いかなる意見を提出するかについて、常任委員会を開き協議の結果代表一名の場合は在京する和田文雄を、二名の場合は会長又は事務局から送ることをとりきめました。

さらに、その審議会の審議過程等をおもんばかり、次の二つの方針を検討の上決定しました。第一には「学園の現状と将来の発展にとつての刷新要綱(案)」とし、第二にはその要綱に従つて具体的にどうするか即ち、学園の教育体制の刷新整備の具体的試案としてとりまとめました。

第一の「刷新要綱(案)」については別掲のとおりであり、具体的試案は五月以来再三にわたって作成してきましたが、その内容については何分にも一万語をこすものでもあり、第一の大綱の実段階において「審議会」に提出する意図でありますのでこゝでは省略させていただきます。

以上このように同窓会としては、三十九年大会以来、二十年式典をはじめ、学園の将来の発展のため微力を尽してきましたが、四開の状況は必ずしも樂觀を許さないいきびしいものがありますのでなお一層全同窓生とともに母校発展のために全力をあげ努力を重ねてゆき



たいと思つておられますのでなほ今後
のご理解とご協力をお願ひいたす次
第です。

鯉淵学園刷新要綱(案)

去る八月、農民教育協会理事会は、
えて農民教育協会はわれわれの希望
をいれ努力されていることに深甚の
敬意を表するものである。

しかし現況では同窓会の危惧が解
消され希望が実現されるには甚しく
時間のかゝるものと認めざるを得な
い。こゝに早急に、協会、学園、同
窓会が一体となつて学園の発展とわ
が園農業全体の発展のため真に力を
尽すことを期し、この要綱を同窓会
常任委員会として採択し協会に設け
られる「将来計画の検討のための機
関」に提議し、慎重なる審議の上こ
れが実現されることを期待するもの
である。

特に、同窓会は昭和四十年三月一
五日付の鯉淵学園二十周年記念事業
と学園の発展のために、農民教育協
会理事あてに提出した「要望書」に
述べた大綱に従つて個々の問題につ
いての建議を行つてきた。これに応

じての建議を行つてきた。これに応

鯉淵学園の刷新要綱(案)

の発展にあたって

昭和四十一年十月二十二日
鯉淵学園同窓会

一、当面刷新すべき問題
1 教育内容の充実、強化をはかる
こと
学園における教育の方向に改善
を加えると同時に、教育担当者
の強化充実をはかり、教育課程

の拡充により学生の質の向上を期
すべきである。
なお、学内において充足されない教
科については、学外実習の施設方法
の強化により補うものとする。

2 教育施設の整備拡充をはかるこ
と

教育、実験、実習等の諸施設の充
実と近代化をはかり、内容を改善
し、学生が教室においても、寢生
活においても充分なる学習の出来
うる環境を整備し、なほ課外活動
の助長のため、体育、文化、レク
リエーション施設等の設備を強化
するものとする。

3 学園財政の強化をはかること
学園財政の強化は学園代表者
の責任においてその体制を考究し
処理するものとし、特に収益事業
等の開発を計るため、学務、運営
管理等の責任の分担などについて
の方策を講ずるものとする。

4 学園の業務執行体制の刷新をは
かること
学園業務執行上、教育、経営の部
門の責任体制を明確にし、その強
化をはかり、その各機関の代表の
選任の方法について考究し、学園
の運営の実をあげる機関を構成す
るものとする。

5 学園および協会の業務執行の一
元化をはかること
学園と協会事務局の業務執行を一
元化し対外的、対内的に欠けると
ころのない強固なる体制を樹立す
るものとする。

- 6 奨学金制度の強化充実をはかること
 現存の制度の整備充実をはかるとともに新たに資金の調達をはかり学生の経済的負担の軽減をはかるよう措置するものとする。
 - 7 農業教育団体との連携の強化をはかること
 学園が閉鎖的に存在することは学園の発展のためにも、わが国農業にとつても不幸なことであるので、広く他の関係団体機関との連携を強化するものとする。
 - 2 運営の改善と財政措置の強化をはかること
 現状の把握と分析の上に立つて、さらに将来の計画を基とし、学園業務の効率的運営のための執行機関を設け、その機能が充分に発揮出来るものとする。
 学園運営の経済的援助は、学園の教育が国の農業政策および農業団体等の目的達成の一助たるべき事実にかんがみその助成を大巾に受けうるよう措置するものとする。
 - 3 鯉淵学園奨学会を設けること
 そのために、学園運営の最高責任機関として関係者(国、団体、学園等)にて学園運営管理委員会(仮称)などを設けることもありうるものとする。
 - 4 農業教育団体との連携の強化をはかること
 各農業教育機関との学制的連携をはかるとともに、農業教育に関する全国的な関係者によるシンポジウムを主催し、農業
 - 1 教育課程の充実、拡充をはかり附属機関等を設置すること
 学園における教育の質的内容と制度的欠かんを探究し、わが国農業の後進性を克服し農業の近代化と他産業との格差を是止しうる人材を養成するものとする。
 また現に農業各部門で実務するものの再教育に関する課程を設ける。
- 農業教育の総合的研究に関する附属機関を設ける。
 なお前述した学園内において充足しえない実験実習については学外に学園施設として設置するものとする。

三、教育の発展をはかるものとする。
 刷新要綱の具体的な取扱いについて
 この要綱は刷新に関する大綱であり、その具体的内容については同窓会は試案を検討済であるが、なお協会、学園、同窓会ならびに関係者各位の協力と理解によつて達成されるものと思料するので、その審議をまつものとする。
 たゞし、同窓会はこの要綱に示す方針達成のためあらゆる努力をばらうとともに、学園の経営全体ならびに人事に関する問題についてはその態度を留保するものとする。

鯉淵学園の教授陣容

主な担当科目	職名	氏名
日本農業論, 農協経営総論	協会理事 学園長	純田 鞍
農業経営, 農業簿記	教授	雄夫 石橋
園芸	教授 農協指導員	秀夫 石田
食物, 食品加工	教授	正秀 新井
外国語, 法律	教授 農協指導員	次男 近官
農業協同組合論, 農協簿記	教授	三郎 久米
畜産	教授 農協指導員	良直 高石
経済, 農業金融論	教授	宏 築島
農村社会, 農業指導論	教授	典夫 西村
作物保護, 基礎実験	助教授	美雄 坪野
上 壤, 基礎実験	助教授	雄 紗田
畜 産, 基礎実験	助教授	志 白田
食 物, 実習	助教授	薫 高橋
化 学, 肥料	助教授	互 左田
植物生理, 作物	助教授	恵 久米
被 服	助教授	貞 官
家 庭 管 理	助教授	利 桜井
園芸, 園芸実習	助教授	三 高橋
農 機 具 実 習	助教授	

(他に非常勤講師20名)

支部だより

北から南から

事務局 高島良哉(八期)

厳寒期を過ぎ、同窓会事務局の方々をはじめ学園の皆様にはお変わりなくご奮闘のこととお察し申し上げます。私達三重県同窓会(潮会)も毎年その会合を行なへ、その発展をうれしく思っております。また本年は一月四日に津市に於て通信教育修了生四名を含めて一五名の参加のもとに同窓会を開催いたしました。

近畿ブロック総会

去る七月三十日、三十一日の両日、神戸市六甲山頂において近畿ブロック(澄賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、奈良)の同窓会が開かれ、二六名の方々が出席されました。今回の計画は京都の杉原、藤井両氏が中心にお世話いただいたもので、従来から各県ごとの集りははたれてはいるが近畿は交通の便もいよからせひ一度集まろうということでもつたようです。

三十日の夜は下界の暑さとうつてかわつてすゞしい山の上でスキヤキ



をつつきながら思い出話や今の仕事などに話がはずみました。特に期の古い先輩たちにとつては、学園の先生方はどうしているか、われわれが植えた校庭の周りの植木はどんなに大きくなつたかなど、知りたいことが一ぱいで期の若い連中や在学生などからこまかく報告があつたようです。なかでも最近女子学生が年々増えて学園生活に花をそえていることなど、うらやましいことが多かつたようです。

又、同窓会本部でも学園の運営や教育の問題について苦慮されているようで、そんな問題もいろいろ話合いました。一朝一夕に名案が出るようななまやさしい問題ではないので学園の現状もよくきき、時間をかけて議論してみるより方法がないように思います。

最後にこの近畿ブロックの集りは隔年にもとうとうということになり、各県の連絡員をきめ三十一日午前十時すぎ解散しました。

写真左から前にかざっている人、加藤①、福田②、栗山③、原井川④、金田⑤、橋本⑥、大山⑦、眼鏡をかけている。中馬⑧、近本⑨、後列左から立っている人、柴垣⑩、中谷⑪、長峰⑫、水口⑬、萩田⑭、吉田⑮、米田⑯、中村⑰、竹山⑱、越野⑲、最後列(古田、米田の後から)杉原⑳、竹村㉑、岸本㉒、藤井㉓の各氏。この外に山本寿和㉔、伊福靖㉕、小林成子(在学生)の皆さんが出席しましたが途中で帰られましたので写真に入つておりません。(加藤繁氏より送られて来た兵庫原支部だよりから抜粋)。

三重県支部から

会 長 石田利允 (二期)

静岡県支部総会

村田さんや勝又さんから、長距離電話による再三の督促があり、又昨秋来学生諸君の見学旅行や農家実習などで、両兄はじめ米倉、大石、清水の諸兄に大へんお世話になつたお



祝鯉 静岡学園 静岡県人大会

れも申述べたいし、さらに久方振りに支部の皆さんにお目にかゝれると思つたままになつて、往復新幹線の日帰えり日程を立てました。八月二日の十時、静岡駅に降りたら山下耕一さんとバツタリ出合い、同じく県人会出席のため来静とあつて、早くも日頃の忙しさも雑念も吹きとんでしまいました。会場の駅前龍宮旅館につくと、幹事の方々はすでに細部にゆきとどいた準備をすゝめておられました。程なく続々と見えられたなつかしい面々、なかには余りにも長い間お目にかゝらなかつたせいのか、或は余りにも買録がついてしまつたせいとか、とつさに思ひ出せぬ人もありました。少し話をかわしている間に往時の面影が蘇つて、何年、十何年の時の流れも一ぺんに忘れ去つて再会を喜びました。

十一時開会、今村さんから経過報告、続いて鯉淵出身らしい自由奔放な自己紹介、山下勇さんを支部長に、村田、勝又、清水の三氏を事務局に推挙決定、正午すぎから懇親会に入りました。

学園生の集りは何処での集りも相違したものでしょうから、細部はご想像願わしく、支部会員〇名のうち約三分の二の方々が出席された大盛会であつたことだけ書くにとどめましよう。全く時間のたつのも忘れ、すつかり皆さんのお世話になつて静岡駅を後にしたのは夕刻五時でした。写真はご出席の皆さん。前列左から大石③、飯田①、西村事務局山下勇①、鈴木昭司②、増島②、米倉②、二列目左から山

下耕一さんの坊ちゃん、山下耕一①、鈴木恒雄⑤、松永③、今村④、丙山⑦、和田②、清水⑧、ネクタイをしている。三列目左から松井⑦、村田⑧、樋口⑨、杉山⑨、角替(小田)⑩、中村⑤、勝又⑤。最前列から、足立⑦、原崎④、鈴木君紀⑧、匂坂(在学生)、田代(同)、大石(同)。(事務局・西村記)

昭和四二年度学生募集

学園では、同封しました募集要項によつて、今年も学生募集をすゝめてあります。大綱は従来とほとんど変わりませんが、受付期間は約一ヶ月短縮されて二月二十五日までとなりましたし、選考、発表も従来の応募書類到着次第書類選考して合格者に連絡してつりましたのを、今年三月六日一斉に発表し本人に通知することになりました。諸経費も昨年より若干値上りとなつております。(入学金本科二〇、〇〇〇円を二二、〇〇〇円に、専攻科一〇、〇〇〇円を二二、〇〇〇円に、授業料月額一、二〇〇円を一、五〇〇円に。寮費月

額八〇〇円はそのまゝ)。四十一年度は皆さんのご協力によつて、近年にない多数の応募者があり、例年以上に頼母しい後輩諸君が入学して勉学にはげんでおります。ご存じのように、諸設備など不十分ではありますが、私ども教職員一同学園の教育全般にわたつて充実に向上を図りたいと、連日のように検討を続けております。どうか今年もよい後輩を一人でも多くご紹介して下さい。よろしくお願い致します。

鯉淵学園 教務課

学園創立二十周年

記念事業資金応募状況報告(第五回)

本年六月一日から十一月末日までにご協力いただきました金額は四、五〇〇円(そのうち記念史代五、五〇〇円を含む)であります。ご応募下さった方々の氏名は次のとおりであります(※印は記念史代を含む)。

北海道・太田満男子(17・二〇〇〇・※)、宮城・阿部清太郎(6・二二〇〇)、茨城・酒寄菊治(20・二二〇〇・前回分との合計三七〇〇)、吉川昭雄(11・一五〇〇・※)、東京・鈴木昭司(11・一五〇〇・※)、新潟・酒島範子(14・一〇〇〇)、富山・水田清(10・三〇〇・前回分との合計二二〇〇)、石川・北岸外喜男(10・一〇〇〇)、福井・佐藤穂栄(18・一〇〇〇〇・前回分との合計二〇〇〇〇)、栗田信夫(19・一〇〇〇・※)、長野・丸山仁志(7・二二〇〇・※)、唐木保(7・二二〇〇・※)、静岡・清水一昌(11・一〇〇〇〇)、村田和彦(11・一五〇〇・※)、滋賀・吉村康男(19・一三〇〇・※)、大阪・加藤正二(

8・二五〇〇・※)、兵庫・井口善弘(16・五〇〇)、奈良・九鬼正信(4・五〇〇〇・前回との合計八〇〇〇)、和歌山・土肥洋一(5・二二〇〇)、岡田健太郎(通1・一〇〇〇・※)、佐賀・星良美(16・五〇〇・※・前回との合計一〇〇〇)、向前回会報(六月二十七日付)の七三二八円(そのうち記念史代三五〇〇〇円)を、合計二八〇・三一八円(そのうち記念史代三四・五〇〇円)と、又二頁最下段の総合計一、二五六・五四八円(記念史代二二〇〇〇円を含む)を、総合計一、二〇〇〇円を含む)にご訂正下さるようお願い致します。そうしますと今回の分と合せて、総合計一・二九八・四八円(記念史代二三五・〇〇〇円を含む)となります。基金募集の開始以来、非常に多くの方々のご協力のおかげで、力をいただきほんとうに有難うございまして、目標額達成にもうひと奮

起し、特にまだご協力いただきたい方々に重ねてよろしくお願い申し上げます。

事務局だより

佐藤穂栄氏(福井県・十八期)の提案

今回、会館建設基金として三千円送ります。私にとつて今回はとてもつらい金ですが、事務局のみなさんの苦勞、学園の発展を願うとき、少しでもという心を押えることができ、ところで一つ提案ですが、第二の人生に入る人は結婚記念として二千円位会館建設基金を寄せること。

基金は今回限りでなく、恒常的に何時でも応募できるようにする。

田淵秀夫教授

二郷里に帰られる

安達教授ご転出の後今日まで十数年の間、園芸学の主任教授として、又園芸農場長、農業技術研究室長などの要職を兼ね、ご活動下さった田淵先生は、ご家庭のやむなき事情で郷里に帰られた。今後はお近くに新設された観光農場長としてご活躍

される由、これまでのご指導を感謝申し上げます。先生はじめご家族の皆様のご健康をお祈り致します。新住所 香川県三豊郡豊中町下高野

後記

おそくも十二月はじめにはお手許にとくようにと心ぐみしておりましたが、日常の仕事が多忙な上に、突発的なことが次々に加わつてどうにもならず、年内にすべりこみ出来れば上々という醜態になつてしまいました。記念史など、この次こそといながら未だに出版の見とおしが立たず、事務局も辞職ものだと自らを買めています。

しかし福井、佐藤穂栄(18期)さんをはじめ全国の皆さんから激励されてフウフウしながら頑張つています。また、東京・大沼淳(4・協合理事並木学園理事長)、長野・唐木保(7・中太興業社長)、奈良・九鬼正信(4・奈良農試技師)の皆さんからは会費の外に多額のご寄与をいただきました。ほんとうに有難うございました。

もうすぐ四一年も終了、どうか全国同窓生の皆さん、よい年をお迎え下さい。

(四一・一一・一五)